私は将来、機械学習の分野で特にAIに関して特化して、日本のIT産業の発展に貢献したいと考えております。そのため、私は渡邊澄夫先生の研究室を第一希望としております。このように思いあたったきっかけは、私が学部3年の４Qに「データ解析」という渡邊澄夫先生の授業を履修したことです。

大学に入学した当初は、私は自分の得意分野である数学を活かせる仕事に将来就きたいと考えていました。さらに、学部1年の頃に文系教養科目として「統計学」を履修したときに数学と統計学を用いたアクチュアリーという職業の存在を知り、数理統計学を活かした仕事をしていきたいと考えました。数理計算科学系に所属した後は、確率論や数理統計学などのアクチュアリーに役立つことを学ぶことができました。しかし、それと同時にコンピューター・プログラミング系統の科目を学習していくにつれ、大学に入学する前は苦手と感じていたプログラミングも得意になっていき、サークルでチーム開発を経験したときに、プログラミングを使って何か制作することの楽しさに気付きました。自分は一人の理系人として、技術発展に貢献したいと思っているため、アクチュアリーだけでなく、プログラミングを活かして社会や技術発展に貢献できる仕事はないかと考えていました。そのときに現時点、さらには今後も技術の発展にコンピューターは必要不可欠であることを考え、自分が技術の発展に携わりたいと考えたときにプログラミングをより専門的に勉強することが今後大切になると考えました。

学部3年の頃にはどの分野に進んでいこうか迷っていましたが、「データ解析」という授業を履修したときに機械学習に興味を持ち、人工知能を学習したいと考えました。しかし、学部だけの授業では機械学習の専門的な知識を得ることができないと考え、大学院に進学することを希望しました。

私が渡邊澄夫先生の研究室を希望する理由として、理論的なことだけではなく、機械学習を実践できることに魅力を感じました。また、優秀な学生が集うレベルの高い環境に身を置くことにより、自分自身を大いに成長させていきたいと考えております。大学院への進学が決定した際は、学業に一心不乱に専念して研究に励んでいきたいと考えております。